授業科目　精神保健福祉援助実習

【担当教員名】	対象学年	4	対象学科	社会（精神保健福祉コース必修）
近藤　あゆみ、松本　京介	開講時期	通年	必修選択	選択
	単位数	6	時間数	270（うち現場実習 180 時間）

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：GIO】

現場体験を通して精神保健福祉士として必要な専門知識・技術ならびに関連知識の理解を深め、精神障害者への相談援助及びリハビリテーションに関する資質・能力・技術を習得する。

【学習目標・行動目標：SBO】

１．これまで学んだ精神障害者の支援に必要な保健・医療・福祉に関する幅広い知識について、その実際をじかに体験することにより、具体的に述べ、統合的に説明する。
２．精神保健福祉の諸機関・施設の実施主体、設備、人員等について、根拠法令に基づき説明する。
３．実習目標とそれを達成するための具体的課題・方法を設定する。
４．配属先の精神障害者がおかれている現状及びその生活実態やニーズを具体的に述べる。
５．秘密保持や権利擁護などの職業倫理に基づいた行動を実践し、精神保健福祉援助の価値・倫理を具体的に述べる。
６．実習体験をもとに実践場面における態度・行動を客観的に振り返り、自己の課題を明確に示す。
７．それぞれの職種の連携がどのように行われるのか、ケースカンファレンスがどのように利用者に役立つのかなど、職種間の連携について具体的に説明し、考察する。
８．精神保健福祉士による直接及び間接援助技術がどのように実施されているか具体的に説明し、その意義や重要性について考察する。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
	【オリエンテーション】		全体指導
	【事前学習】		全体及び個別指導
	精神保健福祉に関する基本的な理解	1	
	実習先の理解	2	
	見学学習（精神科病院・社会復帰施設）	2,3	
	個人票作成	3	
	実習課題の検討と達成課題の確認	3	
	実習計画案の作成	3	
	実習においての心構え・留意点	5	
	【現場実習】	1,4-8	担当教員による巡回指導
	５月から９月		
	（配属先及び日程は別途伝えます。）		
	【事後学習】		全体意及び個別指導
	実習目標の達成度の評価	1,4-8	
	実習内容の振り返り	1,4-8	
	解決すべき自己の課題の整理	1,4-8	
	精神保健福祉士としての基本姿勢・技術の学習を深める	5,7,8	
	【実習報告会】	1,4-8	発表，討論
	12 月		

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）				
参考書	実習生のための PSW 実習ハンドブック	牧野田恵美子他編集	へるす出版	2002・3,000 円＋税
その他の資料				適宜、配布する。

【評価方法】

事前・事後学習の出席状況、授業態度、配属先の実習状況、実習ノート、その他提出物の提出状況などに応じて総合的に評価する。

【履修上の留意点】